

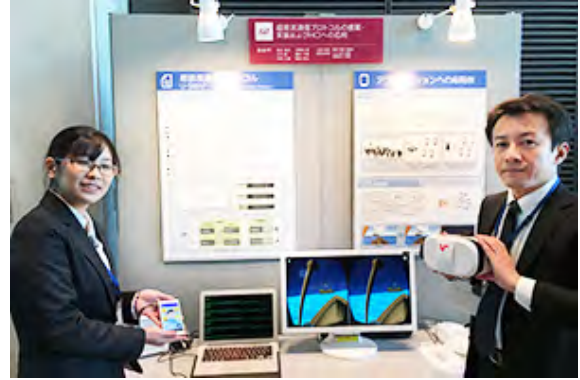
3.4.10 PBL プロジェクト成果発表会

平成 28 年度の事業アーキテクトコース PBL 開講は表 11 記載の 6 つ。事業アーキテクトコース PBL 進級学生 10 名(情報アーキテクチャ専攻 7 名、創造技術専攻 3 名)は、情報アーキテクチャ専攻の小山 PBL へ 3 名(秋学期より 1 名が戸沢 PBL へ移動、1 名休学)、酒森 PBL へ 1 名、戸沢 PBL へ 3 名(秋学期より 1 名が小山 PBL より移動)、創造技術専攻の池本 PBL へ 1 名、越水 PBL へ 1 名、吉田 PBL へ 1 名の配属となった。尚、各 PBL の進捗については、当年度開催したプログラム開発委員会に各 PBL 所属事業アーキテクトコース学生を招聘(第 6 回に小山 PBL、第 7 回に戸沢 PBL、越水 PBL、第 8 回に酒森 PBL、池本 PBL)し、プレゼンテーション実施、委員との意見交換を行っている。尚、平成 29 年 2 月 11 日には、東京国際フォーラム(有楽町)にて PBL プロジェクト成果発表会を実施している。

表 11 平成 28 年度事業アーキテクトコース PBL

担当	事業アーキテクチャ専攻			創造技術専攻		
	小山教授 PBL	酒森教授 PBL	戸沢教授 PBL	池本教授 PBL	越水教授 PBL	吉田教授 PBL
コース院 生数	3名	1名	3名	1名	1名	1名
概要	イノベーションのための情報システム・ソフトウェアの開発	PMBOK ベースのスタートアップ知識体系の有効性の検証と提言	事業改革に向けた事業戦略策定支援	訪問時間外で訪問看護の質を高めるコミュニケーションサービス	生体情報を用いた観光支援ツール「EEG TRAVELE R」の提案	都市におけるイノベーションと人の関係の再構築

- 日時: 2017/02/11(土) 9:30-18:00
- 場所: 東京国際フォーラム ホール B5



《酒森 PBL》

- タイトル：「PMBOK ベースのスタートアップ知識体系の有効性の検証と提言」
- 講演内容：以下、資料抜粋

ASAP
AiiT Sakamori PBL Actionable Practice

PMBOKベースのスタートアップ知識体系の有効性の検証と提言

2017年2月11日
酒森PT
梅津崇 鈴木由恵 平井均
藤田聡 藤戸肇 宮里恭典

ビジョンと目標

➤ 基礎力を身につけたうえで、創造性の高いプロジェクトに挑戦

実践的価値創造による産業界への貢献

- 大規模プロジェクトのマネジメントを正しく実践するスキルを身につける
- PMと事業アーキテクトのスキルを統合し、企業のスタートアップと持続的成長を実現するマネジメント手法を創出し、産業界へ発信
- 大規模プロジェクトマネジメントの模擬実践
- スタートアップ知識体系 (Start Up Body Of Knowledge : SUBOK) の開発

全員の創造力で、変化へ挑戦、まずやってみよう！

出典：ポートフォリオマネジメント標準 第3版

プロジェクトの達成度

達成度：背伸び目標まで達成。最終着地点までは未達 (チャレンジ)

産学実践レベル: ビジネスの成功 ねむり持続 (チャレンジ)

伴走目標: 登記関連書類の作成 (検閲中), 起業の準備

到達目標: 知識体系の検証 (達成!), 知識体系の有効性確認

産学最低目標: 知識体系の開発, スタートアップ知識体系の開発

起業およびスタートアップの学び: 起業関連作業洗い出し (WBS) スタートアップやデザイン思考の実践

PMBOK® / ポートフォリオマネジメント / 経営戦略 のスタディー

スタートアップ知識体系 (SUBOK) の目的と対象

➤ これからのプロジェクトマネジメントには何が求められるだろう？

➤ PMと事業アーキテクトから成立つチームに相応しいテーマは？

目的: プロジェクトマネジメントの新たな価値の提示

ゴール: 持続可能な会社のスタートアップを検討するときに参照される、ナレッジ資産の公開

誰に: 節目をトリガに、真剣に人生をチャレンジしたいと思っている人に

どのように: PBL成果発表会、および新たに設立する会社を通して

PMBOK® プロジェクトマネジメント知識体系ガイド

SUBOK スタートアップ知識体系ガイド

スタートアップ知識体系 (SUBOK) のプロジェクトスコープ

スタートアップ知識体系ガイド (SUBOK) が対象とするプロセス領域は、**創業者のビジョン創出から、戦略・ガバナンス計画の策定、スタートアップの実行、そして事業運営に引き渡すまで**とした。

プロジェクトスコープ: 戦略・ガバナンス, スタートアップ実行, 事業運営

起原のビジョン/ミッション → Design → Lean → Agile

事業候補バックログ → 事業

SUBOKのインプット・ツールと技法・アウトプット (ITTO)

SUBOKのインプット・ツールと技法・アウトプット (ITTO) の全体像

戦略, ガバナンス, ベネフィット, ファイナンス, 組織

実行統合

《戸沢 PBL》


- タイトル: 「事業革新に向けた事業戦略策定支援」
- 第7回プログラム開発委員会発表内容: 以下、資料抜粋

ビジネス検討に関するセッション資料
(第8回)



2016/07/26
産業技術大学院大学
産業技術研究所情報アーキテクチャ専攻戸沢PBL

2-2. 今までのやり方だと価値ビジネスは作れない



工数で値段決定 (人月ビジネス) vs 価値ビジネス (例: フィー型)

お客様は多数 vs お客様は少数

実現するには準備が必要 (投資, 開発, 体制, PDCA)

改革のポイント①
工数施行の案件構築から、価値指向のビジネス展開へ

【改革の考え方】
貴部門のビジネスを工数(人月)から価値(成果評価可能な形)へ
~構築ではない手段への動きかけ~



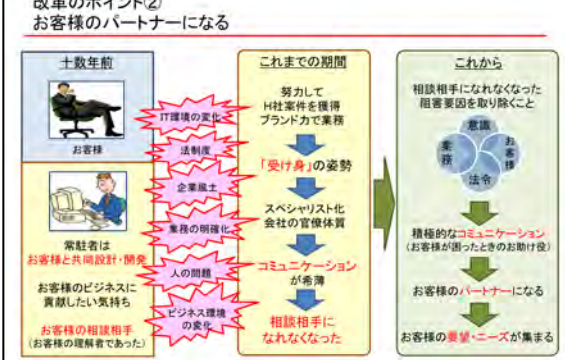
【現状】 人=売上, 作った価値は考慮されず

【これから】 “お客様(利用者)のあったらいいなあ(価値)に動きかける”

価値で表現 (メニュー化, 自動化, ツール化)

価値を広げて行く動きかけを貴部門が行っていき必要。

改革のポイント②
お客様のパートナーになる



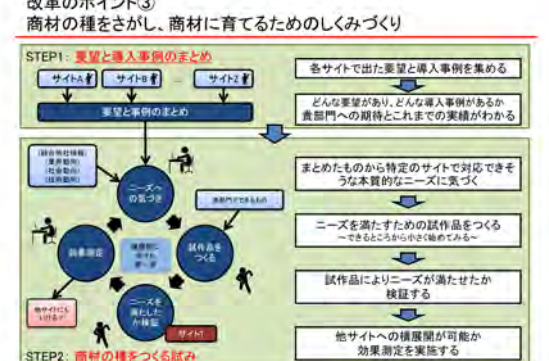
十数年前 vs これまでの期間 vs これから

「受け身」の姿勢 vs 積極的なコミュニケーション

お客様のパートナーになる

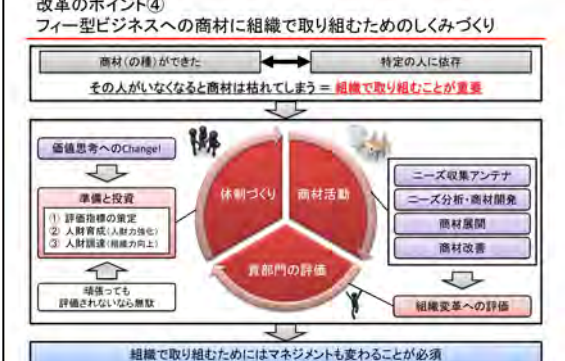
改革のポイント③
商材の種をさがし、商材に育てるためのしくみづくり

STEP1: 要望と導入事例のまとめ



STEP2: 商材の種をつくら試み

改革のポイント④
フィー型ビジネスへの商材に組織で取り組むためのしくみづくり



商材(の種)ができた ↔ 特定の人に依存

その人がいなくなると商材は枯れてしまう = 組織で取り組むことが重要

価値思考へのChange!

準備と投資 (1) 評価指標の策定, (2) 人材育成(人材力強化), (3) 人材調達(機能力向上)

商材活動 (ニーズ収集アンテナ, ニーズ分析・商材開発, 商材展開, 商材改善)

貴部門の評価

組織変革への評価

組織で取り組むためにはマネジメントも変わることが必須